

石巻の石でアート

横浜の児童が制作、作品展示

横浜市の小学生が宮城県石巻市の石をモチーフに完成させたアート作品を展示した「まちのこども作品展 vol.1.2」が横浜市港北区の独企業「テュフ・ライランド・ジャパン」1階のギャラリー（☎045・470・1860）で開催されている。

19日には作品を作った小学生と石を寄贈した石巻市の関係者による交流会も行われた。

作品を作ったのは、市立東山田中学校（都筑区）コミュニティハウスの土曜ク

ラブに通う児童14人。竹原和泉館長（63）が約1年前、石巻市立雄勝中学校を訪れた際、東日本大震災の津波で近くの川から校舎内に流れ着いた無数の石を見て、

「ものが語る記憶を残さなければいけない」と思ったのがきっかけだった。

その後、同中の関係者の協力で300個の石が届けられた。竹原館長が児童に津波や石の物語を聞かせ、それぞれ一つの石を選ばせた。

児童は石との「対話」から始め、段ボールや画用紙

を使い、作品を完成させた。市立山田小6年の川添亮汰君（12）は、赤を基調にカラフルな明るい作品に仕上げた。「石を通して被災前の様子が伝わってきた。被災後の明るい未来への願いも込めた」という。

石を集めた復興教育支援ネットワークの石川陽代表理事（49）も「つらい思い出の石がみんなの力で全く別のものに生まれ変わったのがうれしい」と児童らに感謝の言葉を述べた。

作品展は4月30日まで。午前9時～午後6時（土日祝日は休館）、入場無料。

宮城県石巻市の石をモチーフにアート作品を完成させた児童

19日、横浜市港北区

